



8日に96歳で死去した英国のエリザベス女王は、国家元首でありながら、同国で最も著名なファッションアイコンだった。明快かつ品格ある装いで世界を魅了した。

(生活部 谷本陽子、野倉早奈恵)

モード UPDATE

装いで語った女王

女王は公務の際、決まったスタイルを好んだ。コートドレスを基本とするそろいの上下と、同色の帽子、3連のネックレスにブローチだ。

服飾史家の中野香織さんによると、即位間もない20



21歳の誕生日に花柄のワンピースで写真に納まる(1947年4月)＝AP

①そろいの色の帽子とコートドレス、ネックレスとブローチがトレードマークだった(上は2021年7月、下は22年6月)＝いずれもAP

鮮やかな色 存在感 ブローチ選び 話題

代は、デイオールのニューラルックのような最先端の装いだった。しかし、30代後半から40代に、「ワンスタイル、マルチカラー」の女王スタイルを確立させた。「鮮やかな色を身に着けて、遠くからでも『女王がここにいる』とわかるスタイルを貫いた。装いで安定感を表していた」と話す。

結婚式に出席した際、愛を象徴する結び目モチーフを選ぶなど、ブローチの使



ウィンザー城で(2022年4月)＝AP

い方にはユーモアがあった。トランプ前米大統領との面会時に選んだのは、女王の母が夫の葬儀で着用したブローチ。「葬儀と同じくらい気が重い面会なのだろうか」と物議を呼んだ。中野さんは「女王は立場上、政治的な発言をしなかったが、ブローチで国民と対話しているようだった」という。



バラ色の装いにはバラの飾りとブローチを合わせた(2009年3月)



帽子のリボンが印象的(2011年4月)＝いずれもロイター

愛用品 経済効果 ◆ 「デザイン賞」設立

回の授賞式には、女王が予告なしに訪れてスピーチし、会場を沸かせた。

ファッション界にも影響を与えた。ドレス、バッグ、ト若月美奈さんは「女王の顔をモチーフにした服をも



者誌(右)P